

第Ⅱ部

東庄町の城郭と居館跡



所在地・東庄町字大友政所台ほか
東庄町指定史跡

① 下総平家の本城

旧椿の湖の最北端に兼田堰があり、近くに大利根用水が開削されている。この東側に細長く突き出した半島状の台地が大友城である。大友城は下総国の銚子の中島城、旧小見川町東氏の本拠森山城と並び第1級の城郭である。

標高は約50m、台地は東西に約100m、南北に300m、囲郭型、直線連郭の構造である。遺構は、二の丸（政所台）、本丸（遠所台）が主郭で、現在は畑地と山林になっている。本丸に行く途中の中央部にくびれた部分があり、政所台と遠所台に分けられている。城主は諸説あるが、文献では、平安時代・平良文が築城したと伝えられている。

二の丸政所台には、円墳（円塚）が4基見られる。地元の伝



大友城の本丸

承では以前、石棺や人骨、直刀が出土し話題となり、政所台の西端には円丘があり、塚の上に「政所台墳墓供養塔」の碑文があり、平忠常、常將、常長、常兼の法号を刻した供養塔がある。

この大友城の歴史伝承は古く『今昔物語』（平安時代に書かれた伝記）に源頼信が平忠常を攻めたときに鹿島神宮に集結した源頼信軍が南下して、利根川の北岸に至り「忠常が栖すまは内海に入りタルところに有る也」と記してある。これはおそらく大友城のことを指しているものと思われる。現在でも遺構は二の丸、本丸、土塁、空堀、腰曲輪、帯曲輪などが残存している。

② 大友城概観 海上氏の祖・平良文・東氏の本拠

大友城の虎口こぐちは城の出入口は、大友部落の南方で、地区公民館がある付近が大手口となっている。字名に鍛冶屋敷、判之前、旗口、兵岬等がある。本丸、遠所台の北側と南側の斜面には「金明水」「銀明水」の小さな湧水池がある。これは城の水源として使用されたものである。現在も少量ながら湧き出している。

古記録の中にも記されているこの城は、多くの伝説を秘めている。特に平忠常の叛乱伝説、千葉家臣記、平良文住居伝説等、話題の多い城である。

『香取郡誌』には「城主は平良文の居城と伝えられており、天慶3年、相模の村岡から移動した忠常は、この地に来て更に整備し築城した」とあり、その後、良文流、平家・千葉氏の主流となった。